

様式 1

九州農政局 新技術・新工法概要表

新技術の 名称	グリーンライム LG			本概要書 作成日	平成 27 年 8 月 4 日														
副 題	発塵を抑えることにより、施工時の周辺環境、作業環境への負荷を低減する固化材。			開発年度	平成 22 年 4 月 1 日														
区 分	1. 工法	②. 材料	工種分類 (2 件まで 記入可)	工種番号	工種分類	備 考													
	3. 機械	4. 製品		6-1	農道 (道路)														
	5. その他			26	その他土木工事														
開発会社 (機 関 名)	宇部マテリアルズ(株)																		
問 合 せ 先	会社名	宇部マテリアルズ(株)	担 当 部 署	カルシア関連事業部 山口販売部販売第二課															
	住 所	山口県美祢市伊佐町伊佐 4611-1																	
	担当者 氏 名	山本武史	T E L	0837-52-0178															
	F A X	0837-53-0005	関連する U R L	http://www.ubematerials.co.jp															
開発の趣旨・目的	軟弱地盤固化工事における固化材の飛散防止																		
技 術 の 概 要	固化材の飛散を最大限に抑えた環境負荷低減型消石灰系発塵抑制型固化材である。																		
適用範囲(条件)	低含水比土(80%以下)																		
特 徴 (メリ ット、 デメリ ット)	<p>(メリット) グリーンライム LG は、固化材自体に水分を含ませることにより、固化材の飛散を最大限に抑えることができるため、市街地・住宅密集地・既存道路の拡幅・農地周辺の地盤改良工事に大変効果がある。</p> <p>(デメリット) グリーンライム LG は、固化材自体に水分を含んでいるため、高含水比(80%以上)の土質によっては強度発現が困難なことがある。</p>																		
説 明 図 構 造 図	<p>グリーンライム LG は農業用で使用する消石灰をベースに石膏を加え 20%程度の水分を含ませた固化材であり、固化材自体の飛散を抑えた消石灰系発塵抑制型固化材である。従来の(湿潤)消石灰より強度発現が確保できる固化材です。</p> <p>◆発塵試験結果</p>  <table border="1" data-bbox="440 1924 922 2060"> <thead> <tr> <th>粉塵量(CPM)</th> <th>定性的評価(発塵の状態)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1~10</td> <td>清浄な室内の状態</td> </tr> <tr> <td>10~50</td> <td>比較的混雑した電車の中</td> </tr> <tr> <td>50~200</td> <td>現場作業では殆どほこり気を感じない</td> </tr> <tr> <td>200~500</td> <td>畑における土ほこり</td> </tr> <tr> <td>500~1000</td> <td>ほこり気が激しくその場にいられない</td> </tr> <tr> <td>1000~2000</td> <td>安定処理工事においては粉塵で前方が透視困難</td> </tr> </tbody> </table>  <p>従来の土質安定材 グリーンライムLG</p>					粉塵量(CPM)	定性的評価(発塵の状態)	1~10	清浄な室内の状態	10~50	比較的混雑した電車の中	50~200	現場作業では殆どほこり気を感じない	200~500	畑における土ほこり	500~1000	ほこり気が激しくその場にいられない	1000~2000	安定処理工事においては粉塵で前方が透視困難
粉塵量(CPM)	定性的評価(発塵の状態)																		
1~10	清浄な室内の状態																		
10~50	比較的混雑した電車の中																		
50~200	現場作業では殆どほこり気を感じない																		
200~500	畑における土ほこり																		
500~1000	ほこり気が激しくその場にいられない																		
1000~2000	安定処理工事においては粉塵で前方が透視困難																		

特許	1. 取得済(番号:) 2. 出願中 3. 出願予定 4. 無
実用新案	1. 取得済(番号:) 2. 出願中 3. 出願予定 4. 無
他機関ホームページへの掲載の有無	国土交通省(NETIS)QS140012-A
キーワード	①農業生産性向上 ②高付加価値農業 ③生活環境 ④自然環境 ⑤景観保全 ⑥生態系保全 ⑦国土保全 ⑧コスト縮減 ⑨施設管理 ⑩施工作業効率 ⑪施工精度 ⑫長寿命化 ⑬機能診断 ⑭予防保全 ⑮補修工法 ⑯災害復旧 ⑰安全性向上 ⑱その他
	⑱その他
発表文献	無し

農業農村整備事業における施工実績(最新10件まで)

事業名	事業主体(農政局、都道府県名等)	工事名	施工年度	備考

農業農村整備事業以外の施工実績(最新10件まで)

発注者	施工年度	工事名
九州地方整備局大分河川国道事務所	H22年度	中津港(田尻地区)道路(盛土工)工事
中国地方整備局松江国道事務所	H22年度	三刀屋拡幅下熊谷改良工事
下関市役所	H23年度	下関市立熊野小学校法面災害復旧工事
九州地方整備局大分河川国道事務所	H24年度	中津港(田尻地区)道路(盛土工)工事(田尻)
防衛省	H25年度	海・大村(23)道路整備工事
那珂川町役場	H25年度	西鉄ハイツ13号線舗装工事(王塚台)
那珂川町役場	H26年度	西鉄ハイツ13号線舗装工事
九州地方整備局福岡国道事務所	H26年度	福岡201号有安地区外改築工事

様式1 記入項目と留意事項

注1) 各項目の行数は任意であるが、全体で3枚程度に納めるものとする。

注2) 行数、幅については任意に変更可

注3) ※の箇所は様式2と整合を図ること

記入項目	留意事項
新技術の名称	一般的にわかりやすい名称を記入する。※
本概要書作成日	本概要書の作成日（年月日）を記入する。
副題	新技術の名称を補足し、わかりやすくするための副題を記入する。
区分	5つの選択肢の中から選択する。
工種分類	様式2 記入要領の工種分類表から選択し、記入する。（2項目まで）※
開発会社（機関名）	当該技術の開発会社（複数の場合全部）を記入する。※
問合せ先	関連するURL：当該技術に関するホームページがあれば、アドレスを記入する。
開発の趣旨・目的	わかりやすく簡潔に記入する。文字数制限特になし。
技術の概要	わかりやすく簡潔に記入する。文字数制限特になし。 様式2の表現に追加、補足可。
適用範囲	当該技術を適用する条件を記入する。
特徴	メリット、デメリットの両面を記入する。
説明図・構造図	技術の概要をわかりやすく図化したものや参考となる写真を貼り付ける。カラーが良い。原図は、できるだけ鮮明なものとするが、様式1のファイルサイズは500KB以内となるよう留意する。
特許	4つの選択肢の中から選択する。
実用新案	4つの選択肢の中から選択する。
他機関ホームページへの掲載の有無	他の農政局、(社)農業農村整備情報総合センター（ARIC）、国土交通省（NETIS）のホームページに掲載している場合はその機関名及び登録（整理）番号を記入する。
キーワード（選択）	選択肢の中から選択する。（2項目まで）※
キーワード（⑩その他）	⑩その他を選択した場合に具体的に記入※
発表文献	当該技術に関する論文、記事等が掲載されている文献名、発行元、発行年月日を記入する。
農業農村整備事業における施工実績	施工実績について、最新10件までを記入する。
農政局名都道府県	発注機関が、国の場合は、7農政局、北海道開発庁、沖縄総合事務局のいずれか。補助事業の場合は、都道府県名・市町村名等、公団営の場合は、水資源、緑資源等を記入する。
工事名	工事名を記入する。
施工年度	平成年度を記入する。
農業農村整備事業以外の施工実績	農業農村整備事業以外の施工実績について、最新10件までを記入する。